

## 令和元年2学期終業式挨拶

今年もあとわずかとなりました。今年も、元号が変わり、令和元年となった特別な年でした。また、延高にとっても、創立120周年を迎えた年でもあり、二重に感慨深いものがありますね。

さて、先日今年の流行語大賞が発表されました。それは「One Team」でした。ラグビーワールドカップが日本で開催され、日本代表があれだけの活躍をしたのだから、当然の選出だと思います。

そこで、思ったのが、延高でも、生徒・職員・保護者が一体となった One Team でありたい、ということでした。延高での3年間を、One Team という考え方で過ごすことができれば、素晴らしいと思います。つまり、互いが仲間として支え合いながら、切磋琢磨していく集団として成長していく高校生活でありたい、ということです。

特に、3年生は、年明けにいよいよセンター試験を迎えます。センター試験としては最後です。2年生からは、大学入学共通テストとなります。生徒の皆さんの健闘を祈りたいと思います。One Team で乗り切っていきましょう。

話は変わって、若者の力という話をしたいと思います。最近、若者の力の凄さを感じるが増えてきました。かつて若者は、思慮が浅く、経験が少なく、頼りにならないと思われがちだったような気がします。しかし、現代においては、多くの若者たちが大げさでなく世界を変えようとしています。

その理由の一つに「デジタル・ネイティブ」の出現があります。「デジタル・ネイティブ」とは、物心ついたときから周囲にネット環境があり、コンピューターを使うことが当たり前の中で育ってきた人たちのことです。まさに皆さんがそうですね。

その中で、スマートフォンが出現したことがさらに大きく世の中を変えています。ネットによるつながりが日常的になったという点において、世界が大きく変化したと言えるでしょう。まさに、ネット環境を道具として使いこなす世代の出現です。

そして今、「AI ネイティブ」と呼ばれる層が出現しています。ネット環境にあまりに順応した結果、AIによる影響を過度に受けている人たちのことです。

例えば、アマゾンを検索すると、あなたにお薦めの商品が次々と現れ、つい衝動買いしてしまう、いわゆる「ポチる」という現象があります。あるいは、YouTube を見ていると、あなたにお

薦めの動画が現れて、観るのをやめられなくなってしまう、という人も多くいます。

ここで問題なのは、AI によって、我々が本来持っている創造性や主体性が失われてしまう、ということです。AI に勧められるままに行動していれば、自分で何かを作り出すことも、自分で考えて行動することもはやできなくなるでしょう。

そこで大切になるのは、実体験です。自分で行動し、現場で感じて、さらに自分で考える体験をすることです。私がこれまで言い続けてきた皆さんへのメッセージ、「旅に出でよ！」をここでも繰り返しておきたいと思います。

最後に、実際に行動することで、世界を変えようとしている若者の例を見ておきたいと思います。

まず、マララ・ユスフザイさんです。パキスタン出身で、17 歳の時に史上最年少でノーベル平和賞を受賞しました。世界を変えるのは、1 本のペン、1 冊の本、そして 1 人の先生だと訴えました。

2 人目は、グreta・トゥンベリーさん。スウェーデン出身で、地球温暖化の阻止を訴えてたったひとりで始めた運動が、今では世界中の数百万人の若者たちを動かすまでになりました。また、彼女は自分がアスペルガー障害を持っていることを明かしていますが、同時にそれが自分の行動の源になっていると言っています。

もう一人、周庭さん。彼女は香港の民主化運動の指導者です。16 歳の時に当時のいわゆる「雨傘運動」と呼ばれる民主化運動の指導者の一人となり、それから今も運動を主導し続けています。彼女は日本のアニメが好きで日本語を独学しており、日本のテレビの取材に流暢な日本語で答えていますね。

さて、彼らに共通していることは何でしょうか？

それは、決して諦めないという意思の力です。そして、困難な目標に向かって果敢に挑戦しているという点です。しかもこの若さです。私たちも一見不可能に思えることであっても、諦めることなく挑戦する姿勢を持ち続けたいと思います。

来年も、延高生が挑戦し続ける年であることを願って、令和元年の最後の挨拶といたします。皆さん、よいお年をお迎えください。